

題 3台の簡易式水中カメラを使った海底調査

船長 西村竜雄

当時は、3台の簡易式水中カメラを保有しています（いずれもファーストシーン社製）。画像1は釣竿式、画像2は赤外線カメラを搭載した船用、画像3は高画質なフルHD仕様です。先日、この3台をフル活用して海底調査を行いましたので、その様子をご紹介します。



画像1 「釣竿式」（カメラ部分は自主加工）



画像2



画像3

1 調査経緯

小田原漁港を管理している西部漁港事務所より、「港入口の海底被覆ブロックを確認したい」との調査依頼がありました（海底被覆ブロックは画像4の形をしています）。

港入口は船舶が往来するので、人の潜水調査は危険です。

また、水中ドローンは点検整備に出していました。

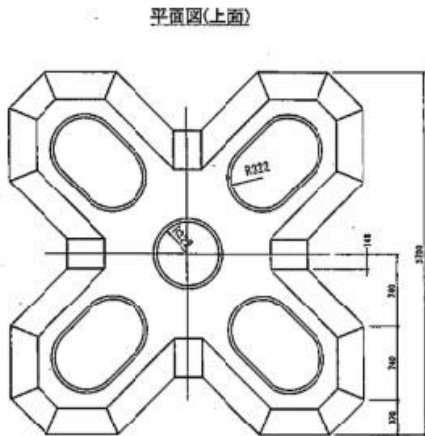
「それなら簡易式水中カメラで見てみよう！」ということになりました。

2 調査状況

調査員は、船の船首、中央、後部の3か所に配置し、合図と共に3台のカメラを一斉に沈めます。そのわずか数秒後には、「お~よく見える」との声が聞こえてきました。

画像2の船用で見た映像が画像5です。画像6と画像7はモニターを確認している状況です。

撮影した動画を、調査船内の大型モニターに映し出して確認したところ（画像8）魚たちの住みかになっているブロックやカジメ等の海藻類が生えているブロックがあることがわかり、無事に調査を終えました。



画像4



画像5



画像6



画像7



画像8

場長から、この調査下命があったのは僅か2日前でしたが、手軽に、そして安全に結果を出すことができました。

今後も漁業調査指導船「ほうじょう」の機動力を生かし、安全な調査活動を展開していきたいと思っています。